



未来に向かって伸びる鶴嶺の子

鶴小だより 夏休み号

「大人として」

長い、夏休みを迎えます。夏休み前に、僕がいつも思うことは、この目の前に並んだこの子どもたちが、ひとり残らず元気な姿で夏休み明けに、また並んでいてほしいということです。

それこそ、祈るような気持ちで「必ず全員、夏休み明けも元気に登校してください。」と話します。

令和3年4月の朝日新聞に、タレントの風見しんごさんが、「小さなお子さんを持つ、お父さん、お母さんへ 大切な命を守るために、ぜひお伝えしたいことがあります。」と題したメッセージが全面広告として掲載されていました。この夏休み前に、保護者の皆さんにも読んでいただきたく、転載いたします。

いつものように赤いランドセルで家を出た数分後。娘、えみるは突然、天国に旅立ちました。

青信号の横断歩道を渡っていた登校中のえみるは、通学時間帯は通行禁止になっているスクールゾーンを通り抜け右折してきたトラックに轢かれてしまったのです。歩行者信号は青だったにもかかわらず・・・。

みなさんは、こう思っていませんか、自分や自分の家族だけは大丈夫、だと。でも交通事故は、当事者を選んでくれません。今日、みなさんの誰かが僕と同じ立場に立ってしまうかも知れないのです。

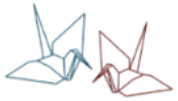
だから、心からお願いします。親子で通学路を調べてみてください。一緒に歩いて危ない場所を確認し、何に注意を払うべきか、くり返し話してください。「気をつけなきゃ。」お子さんは必ずそう思ってくれます。

事故にあってからでは遅いのです。大切なお子さんの命を、今日も、そして明日からも、ずっと守り抜くために。小さな注意を、家族で一緒に積み重ねてほしいと思います。

風見しんご

保護者の皆さんには、本当に子どもの安全について、ことある毎にお話したいと考えています。いつもいつも、僕ら大人が「危ないよ！」と声をかけられるならよいのです。でも、子どもたちは、少しずつその行動の範囲を広げ、自分で判断して道を渡ったり、止まって安全確認したりしなければなりません。自分で安全に行動することができるように、少しずつ育てていかなけれ

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校
校長 日高 大司郎
令和4年7月20日発行

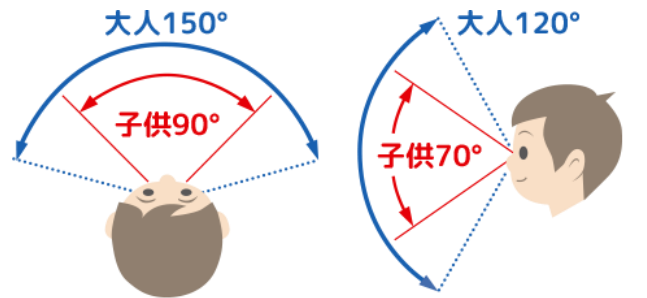


ば、ならないということ、を、「大人」の一人一人が心する必要があると考えます。

ここで、保護者の皆さんに問います。交通ルールを守っていますか？特に、お子さんを連れているときに、横断歩道のないところを渡ったり、点滅信号で無理に渡ろうとしたりすることはないですか？信頼している保護者のみなさんが、安易に交通ルールを破ると、子どもは確実にそれをモデリングします。少し先に横断歩道があっても、いつも家族としているように、その場所で渡ろうとするということです。

まず、「大人として」子どもたちに見せるべき行動で歩いてください。道を渡ってください。自転車に乗ってください。気をつけるべきところを話してください。それを積み重ねた先に、自ら自分の身を守れるお子さんに出会えるのだと思います。

そして、子どもたちの視野は狭いと言われていいます。大人と同じ見え方でないのだと理解して対しましょう。



左右（水平）の場合 上下（垂直）の場合

東京都のホームページでは、チャイルドビジョンといって、幼児の見え方を体験できるめがねの型紙がダウンロードできます。是非、体験してみてください。

道を渡るときは・・・。

- ① 安全な場所で渡る
- ② 一度立ち止まる
- ③ 首を動かして、左右をよく見る
- ④ 車が止まっていることを確認する
- ⑤ 手を上げて自分の存在をアピール
- ⑥ 横断中も首を動かして、左右をよく見ながら渡る

安全に、楽しい夏休みをご家族で過ごしてください。校長からの願いです。